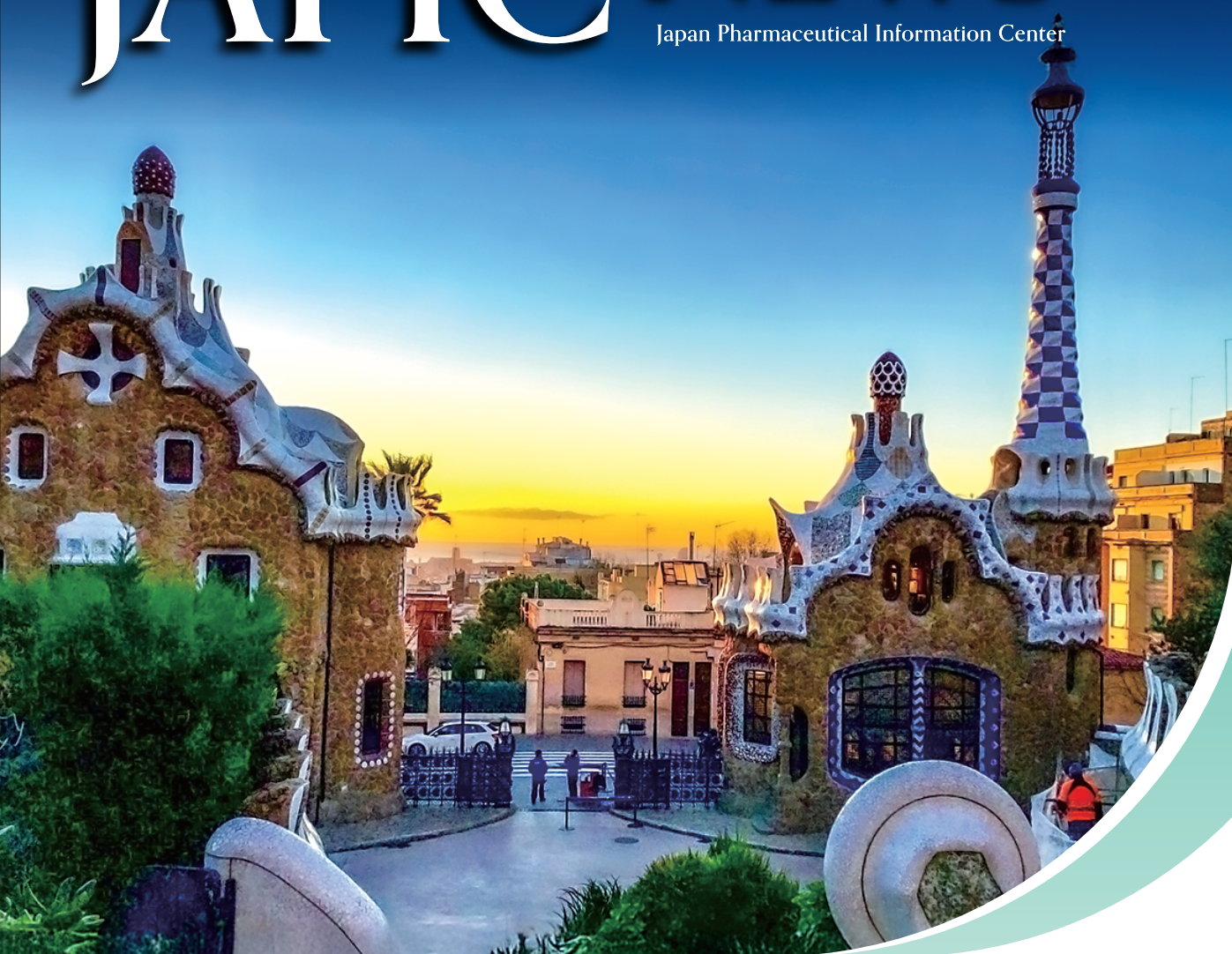


# JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center



## Contents

### ● 巻頭言

#### 日本薬学会が担う薬学人材の育成 —創薬と臨床の土台となる人材へ—

千葉大学医学部附属病院 薬剤部 教授・部長  
公益社団法人 日本薬学会 会頭 石井 伊都子 ..... 2-3

### ● トピックス

令和8年度事業計画について ..... 4-5  
「理事会」「評議員会」の概要報告

[JAPICサービスの紹介] ..... 6-7

外部データベースを利用した検索サービス (JAPIC-DBS)

日本薬学会第146年会 (大阪) に出展しました ..... 8

### ● コラム

くすりの散歩道No.172 「もうどくさんぼみち」

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 医薬文献情報担当 小佐野 郁香 ..... 9

● 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より— (抜粋) ..... 10

● 図書館だより No.430 ..... 11

● 情報提供一覧 ..... 11

May  
2026  
No.504

5

スペインのバルセロナにある世界遺産、グエル公園のメインエントランス付近

**JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

# 日本薬学会が担う薬学人材の育成 —創薬と臨床の土台となる人材へ—

千葉大学医学部附属病院 薬剤部 教授・部長  
公益社団法人日本薬学会 会頭

石井 伊都子 Itsuko Ishii



## <はじめに>

超高齢社会となり2040年問題が目前に迫っている。日本は経済的な豊かさは低下傾向にあるものの、食・芸術・建造物など特有な文化を持ち、社会インフラや治安、サービスの質などは依然として世界最高水準とされている。また、医療に対するアクセスもよく、国民の健康を守る仕組みが整えられている。一方、医療やライフサイエンスを取り巻く環境は、創薬モダリティの多様化、データ駆動型研究の進展、規制・倫理の高度化、地政学リスクによる医薬品供給不足など劇的変化が続いている。医療DXの積極的導入やサイバーセキュリティ対策、プライバシー保護、生成AIの活用と規制、社会に対する説明責任も、研究と医療の現場に新たな要件を課している。こうした激動期において、創薬と臨床を往還し、創薬という学術と臨床という実装をつなぐ“薬学人材”の育成は、日本の競争力と医療の質を左右する。現在私は、日本薬学会会頭を拝命している。その視点から本稿では、日本の創薬・臨床の現状と課題、薬学教育の現状と課題を俯瞰し、日本薬学会が果たすべき役割を提案する。

## <日本の創薬および臨床の現状と課題>

現在の創薬は低分子から、中分子、抗体、核酸、遺伝子・細胞治療、再生医療とそのモダリティが大幅に広がっている。しかし、日本においては、他国で承認されている医薬品の約3割が未承認のままで患者に届けられていない。現在はPMDAの努力により、ドラッグ・ラグの解消は進んだが、その一方で、抗がん剤や希少疾患薬のドラッグ・ロスを露呈している。主な理由として、薬価の引き下げによる市場の優先度の低下や日本における規制対応の障壁により開発コストが回収できないとの判断がなされていると思われる。アカデミアで生

まれた仮説を、非臨床での有効性・安全性の体系化、Chemistry, Manufacturing and Controls (CMC) 設計、規制要件の解釈、臨床開発計画へと切れ目なく接続する横断的開発力に弱く創薬の壁となっている。したがって、シーズや人材までもが流出する事態が起きている。

臨床においては、薬剤師が治療の有効性と安全性を左右する局面は増えている。抗菌薬適正使用(AMS)、がん・免疫治療、希少疾患、周術期管理、ポリファーマシー、TDM、医療機器・診断薬との連携、医薬品リスク最小化策の運用、薬事関連の規制、医薬品供給に即した市場アクセスの変化など、これら全ては医療薬学の知を常に更新することを求めている。したがって、臨床においては臨床マインドと研究マインドをバランスよく備えた pharmacist-scientist の育成が重要となる。

更なる課題として、創薬に関する産官学連携が今ひとつ進んでいない。特に、日本のドラッグ・ロスに関しては、アカデミアによるドラッグ・リポジショニングやベンチャー企業によるシーズからの新薬などと規制当局の間で連携が円滑とは言い難い。日本で見出された有効なシーズが、日本より先に海外で承認されていることは誠に口惜しいことである。また、日本は終身雇用と言わないまでも、産官学での人事交流に乏しいことは否めない。特徴が異なる複数の職場でのキャリア形成が有能な人材の育成につながることを忘れてはならない。

## <薬学教育の現状と課題>

2006年より薬学教育は薬学科(6年制)の薬剤師養成と薬科学科(4年制)の研究者養成を両輪として発展してきた。薬学科が薬局及び病院の実務実習を通して、薬剤師の職能を理解することは、臨床で活躍する人材を育成するのに大いに役立って

いる。一方、研究指向を失いつつあることが大きな課題である。また、薬学科の卒業生の大半が薬局に就職し、病院薬剤師の不足と偏在、学位取得者の不足、医薬品製造管理者の不足など人材の多様性の欠如など喫緊の課題を生み出した。薬学部で学ぶことは薬剤師業務を覚えることではなく、その職能を裏付ける薬学の学問を理解することにある。薬学は複数の専門分野を有した総合科学であること再認識し、6年制を導入して20年となるこの時期に、これまでの経過を詳細に振り返る必要がある。

薬科学科については、創薬を実践する人材に育成のためのカリキュラムが整えられている。薬科学科の約8割が修士課程に進学しその大半は企業に勤務している。薬科学科については、旧来の薬学部カリキュラムと類似するものの、薬学に関する法律や倫理を学習することから、他の理系学部と区別されるものである。薬学部卒業生として研究マインドはもちろんのこと、医療人としての自覚を持つ人材が育成されていくことを望む。

薬学部両学科および日本薬学会に共通の課題、即ち各大学における研究室及び薬学会の専門部会に、AI創薬、計算創薬、リアルワールドデータ解析などを代表とするドライ研究領域の場が圧倒的に少ない。薬学会についても、10の専門部会があるが、新規学問領域をカバーするものではない。今後は、ドライ研究領域の人材育成も積極的に行う必要がある。また、博士進学への減少も死活問題である。特に、薬学科卒業生の博士課程進学への減少は薬学科教員の減少を引き起こし、充実した薬学教育を提供できなくなるであろう。

#### <日本薬学会からの提案>

世界中でAI/ML (Artificial Intelligence/Machine Learning)の「創薬への活用」が活発化する中で、興味があるもののハードルが高く手を出せないのが現状である。先に述べたように、薬学会会員の大半は実験研究者である。そこで、日本薬学会は2025年度よりデータ駆動型AI創薬研究推進WG (PSJ-DAIM: PSJ-Data-driven AI Medicinal Science Promotion Working Group)を立ち上げた。2025年度のプログラムは、「AIの活用事例と理論入門」とし、教授、准教授、助教、企業の若手研究者を対象とした。全4回のオンライン開催であり、アーカイブ化により聴講もできる。初めての試みであったため、AI創薬ベンチャーの専門家と、これまで経験のある実験研究

者が手を組んで、医薬化学部会、化学系薬学部会に教育プログラムを提供していただいた。今後は、分野を広げ、分野横断的に創薬の議論ができるよう発展させていきたい。

博士取得の推進については、夏に行っている学部生WSや冬に行っている大学院生WSを活かしていきたい。タイパ・コスパが横行している世代にも、真剣に将来を考えている学生は多数いる。先に行われた第146年会(大阪)にて開催した「Meet the President! 薬学会会頭と話そう!」コーナーにて複数の学生と意見を交わしたが、彼らは真面目に自分の未来を向き合い、そのプロセスにおいて人との関わりが重要であることをしみじみ述べていたことが印象に残っている。まだまだ捨てたものではない。唯一気になったことは、どの学生も失敗を恐れていたことである。今後はWSを通して学生の声をとりあげ、年会や支部会を通して学生と薬学会会員との密な連携を図り、学生の背中を押せるよう努めていきたい。また、頼もしい高校生のジュニア会員や海外の研究者も薬学会に入会している。彼らがのびのびと研究活動をし、積極的に情報交換できるプラットフォームとして薬学会を発展させていきたい。

改めて日本薬学会は「くすり」に関係する研究者や技術者が、学術上の情報交換を行い、学術文化の発展を目的とする学術団体である。会員にはアカデミアだけでなく、企業や公的機関所属のメンバーも含まれる。課題とした産官学連携についても、今後積極的に交流深め、深い議論ができる体制を提供したい。

#### <おわりに>

薬も人も、人によって作られる。そして、創薬と臨床は切っても切り離せない。共に薬学人として相互理解と相互尊重が必要である。薬学人として重要なことは、アンメット・メディカル・ニーズを含む患者のニーズに心を寄せ、学理に根ざし、新薬創生に挑戦することである。さらに、医療現場では育薬としてより良い薬物治療を育んでいく。臨床の現場と研究の現場を往還し、多様な専門家が対等に学び合う場にこそ、創薬と臨床の芽が育つ。日本薬学会は、薬学人材の育成の輪を広げ、次の世代に確かなバトンを渡したい。JAPIC NEWSをお借りして、読者の皆さまのご参画とご叱正をお願いし、結びとする。ここに示した道筋を、日本薬学会会員皆で進めていく決意である。引き続きのご指導ご鞭撻を賜りたい。

## 令和8年度事業計画について

令和8年度事業計画は第九期中期3カ年計画(令和8年度～10年度)の初年度であり、この中期計画の事業方針である「政府の方針である医療DXやAIの社会実装及びデータ利活用を注視しつつ、書籍発行の見直しを念頭にIT化を推進するなど業務の効率化を図り、ガバナンスの強化等に努める」、「ユーザのニーズ等を踏まえ、サービスの質の維持・向上及び医療DXに対応した組織体制の見直しや新規事業の創出に取り組む」及び「今後も厳しい人材獲得競争が続く中での優秀な人材を確保するためには、研修の充実や働き方改革等を行い、職員の人材育成及び意欲の向上を図るとともに、採用方法の仕組みを包括的に見直し人材確保の充実を図る」に留意しつつ、今後も医療におけるDXの推進等を踏まえ事業を積極的に推進するとともに、事業を承継している動物実験実施施設認証事業についても引き続き遺漏のないよう万全を期して実施します。

以下、令和8年度の各事業の主な概要をご紹介します。

### I 添付文書情報提供事業(公益目的支出計画実施対象事業:継続事業1)

#### 1. 医療用及び一般用医薬品添付文書の収集、提供

新規及び更新分の医療用及び一般用医薬品添付文書を入手し、これをテキストデータ(XML等)に加工、保存し、出版物やデータベース等の提供に資する。

#### 2. 医療用医薬品集等出版物の発行

医療用医薬品集、一般用医薬品集、日本の医薬品構造式集等の出版物及び電子版を発行するとともに、JAPIC医療用・一般用医薬品集電子版及び日本の医薬品構造式集の薬学系大学への無償提供を引き続き行う。

#### 3. 医薬品添付文書関連情報のデータベースの提供

テキストデータを基に医療機関等のニーズに応じて、添付文書全文、禁忌・相互作用・用法用量の個別項目、或いは医薬品の効能効果とこれに対応する標準病名等について独自のシステムによりデータベース化し、データ提供する。

#### 4. 効能効果の対応標準病名及び医薬品類似名称検索システム等のWEBによる提供

ホームページから無償で検索できる「効能効果の対応標準病名」及び「医薬品類似名称検索システム」並びに先発医薬品と後発医薬品群との効能効果、用法用量、添加物の違いを一覧できる「ブルーブック連携データベース」もWEBにより提供する。

### II 薬事関連情報提供事業(公益目的支出計画実施対象事業:継続事業2)

#### 1. 海外規制措置情報(JAPIC Daily Mail)等の提供及び海外文献情報の提供

海外の規制当局、機関における医薬品・医療機器の安全性に関する規制措置情報を提供する。ユーザニーズに即した提供情報の充実を図るため、調査対象サイトや提供内容等の見直しを随時行う。また、海外の文献情報収集については、依頼に応じて外部データベース(MEDLINE、Embase等)を利用した検索サービスを実施・提供する。

#### 2. 大規模安全性情報(JAPIC AERSサービス)の提供

米国食品医薬品局(FDA)が提供する医薬品有害事象自発報告システム(FAERS)の公開データを基にしたJAPIC FAERSデータを提供する。また、JAPIC FAERSデータ及びPMDAが提供する医薬品副作用データベース(JADER)で公開される副作用が疑われる症例報告に関する情報のデータを用いた調査・解析サービスを提供する。

#### 3. 医薬品情報データベースの提供

公開データベースであるiyakuSearch/iyakuSearch Plusは、ユーザの利便性向上等のために新システムをリリースしたところであるが、引き続き、医薬文献情報・学会演題情報、添付文書情報、日本の新薬(新薬承認審査報告書)の情報等、JAPICが保有する医薬品に関する情報を定期的に更新し一般に公開する。

#### 4. その他の薬事関連情報の提供

日本製薬工業協会の各委員会等編集の書籍を販売する出版事業及び各委員会主催の講演会等を開催するセミナー事業を受託事業として円滑に実施する。

#### 5. 図書館の運営

医学・薬学関連の学会関係資料と国内外の逐次刊行物を迅速に収集し、安全性情報確保業務の基盤となる資料として活用し、保管・管理する。

### Ⅲ 医薬文献情報提供事業(その他の主要な事業)

#### 1. 医薬文献・学会情報の提供(JAPIC-Q、JAPIC-QX、JAPIC-Q医療機器等)

国内で開催される医学・薬学関連の学会予稿集・プログラム・学会報告及び学術雑誌を基に、医薬品及び医療機器・再生医療等製品等の適正使用に必要な有効性、安全性及び品質に関する情報を迅速かつ精度の高いデータとして提供する。また、昨年度から開始したシステム再構築においては、安定稼働を継続したうえで、ユーザの利便性向上、業務効率化等を目指す。

#### 2. 医薬文献・学会情報データベース等の提供

医薬文献情報・学会演題情報等の医薬品の基礎から臨床までの有効性・安全性・品質に関する情報等を蓄積したデータを外部の情報提供機関を通じて提供する。

#### 3. 動物実験実施施設外部検証・認証事業

動物実験実施施設における動物実験等の実施に関して、動物実験等の自主管理の促進と共に動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験等が実施されているかを書面ならびに実地調査にて外部検証・認証する事業である。必要に応じて、実地調査方法の見直しを検討するとともに、認証評価員の情報共有・研修を実施し、的確な評価を推進する。

### Ⅳ その他

運営基盤の強化として、システムの構築・運用・保守の最適化及び情報セキュリティ対策を推進するとともに、計画的な人材育成と確保などの組織・人員体制の強化を行う。

JAPICは、医薬品・医療機器等の情報収集・提供の専門機関として、今後も皆様からのご要望に応じた事業展開・運営を遂行してまいります。

会員の皆様には、令和8年度事業計画につきまして、引き続き、ご理解ご支援をいただけますようお願いいたします。

## 外部データベースを利用した検索サービス (JAPIC-DBS)

JAPIC-DBS は、MEDLINEやEmbase等の外部機関が作成している文献データベースについて、定期的に検索を行い、情報提供する検索代行サービスです。

データベースの選択から、検索条件の設定まで、検索のエキスパートがご要望に応じて組み立て、ご提案するカスタマイズ性の高いサービスです。

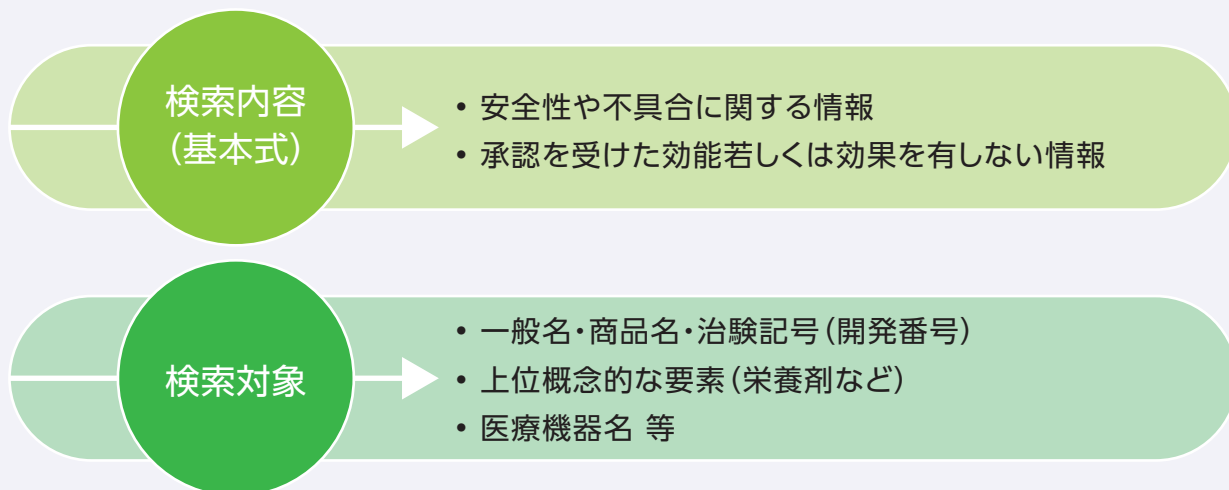
### ■専門スタッフと相談しながらご希望の検索内容を組み立てることが可能です。

JAPIC-Qサービスの各キーワードに対応した医薬品の安全性情報をご希望の場合は、JAPIC基本検索式を利用し、内容に関する条件と対象に関する条件を組み合わせ検索を実施いたします。

また、医療機器等の不具合情報を収集することや、感染症評価報告向けの調査内容への対応も可能です。

### ●安全性情報検索の場合

JAPIC基本式を使用して検索を実施します。



### ●感染症評価報告向けの調査の場合

ご登録いただいた動物種毎に検索を実施いたします。

- 新たに判明した感染症に関するもの
- 新たに判明した感染経路に関するもの
- 感染症の発生頻度の増加に関するもの
- 重大な感染症に関するもの



**+** ユーザー様ごとのカスタマイズが可能

その他、ダウンロードデータを加工し、印刷に適したMicrosoft Word形式(.docx)への加工やJAPIC-Qサービスで提供している書誌・キーワードテキストファイルへの加工等、ご希望に沿った提供物にカスタマイズも可能です。

### ■ご利用データベース

MEDLINE (Dialog)、Embase (Dialog)、医中誌Web\*など、ご希望のデータベースを検索いたします。

※：医中誌Web代行検索許可機関 許可番号No.004

### ■検索頻度

週1回、月2回、月1回など、ご希望の検索頻度で検索いたします。

このほか、スポット検索も可能です。

### ■サービス開始までの流れ

お申し込みからサービス開始までは、最短で3週間程度いただいております。

なお、検索条件・カスタマイズ内容等によって、サービス開始までにお時間をいただく場合がございます。



### ■お問い合わせ先

お気軽にお問い合わせください。

■契約に関するお問い合わせ：事務局 渉外担当 TEL：0120-181-276

■内容に関するお問い合わせ：事業部門 医薬文献情報担当 データベース検索サービス TEL：03-5466-1817

## 「理事会」「評議員会」の概要報告

令和7年度最後となる理事会及び評議員会を3月12日(木)、3月30日(月)にそれぞれ開催いたしました。

今回の主な議題でありました令和8年度事業計画・収支予算については、理事会及び評議員会において審議を行い、原案どおりに承認・決議されました。(議題は以下のとおり)。

なお、会員の皆様には、令和8年度事業計画書を先般ご送付いたしました。

### ○「令和7年度第3回(通算第170回)理事会」 3月12日(木) 15:00~15:50、当センター4階会議室

《議題》

1. 第九期中期3カ年計画(令和8年度~10年度)(案)及び令和8年度事業計画(案)について
2. 令和8年度収支予算(案)について
3. 報告事項
  - (1) 維持会員の異動について
  - (2) 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

### ○「令和7年度第2回(通算第59回)評議員会」 3月30日(月) 15:00~15:50、当センター4階会議室

《議題》

報告事項

1. 第九期中期3カ年計画(令和8年度~10年度)及び令和8年度事業計画について
2. 令和8年度収支予算について

## 日本薬学会第146年会(大阪)に出展しました



大学構内の桜と企業展示を行った  
第4学舎2号館

2026年3月26日(木)から3月29日(日)に開催された、日本薬学会第146年会(大阪)に企業出展しました。今回の開催地は関西大学 千里山キャンパス(大阪府吹田市)でした。大阪での桜の開花は3月26日との事、学内にも桜の木が多く植えられており、会期中は暖かい日が続いたこともあって日ごとに桜の花が開き始めていました。今年のテーマは「ファーマシンフォニーが奏でる未来~やってみいひん? 薬学イノベーション!~」でした。参加登録者数は8,000人弱との事、多くの先生、学生が参加していました。

今回のJAPICの企業展示では、iyakuSearch-医薬品情報検索システム-を中心にご案内いたしました。iyakuSearchはどなたでもご利用いただける医薬品情報検索システムですが、詳細情報など一部の情報はPlusサービスとなり、有償となります。しかしながらこのPlusサービスは、JAPIC会員の機関にご所属の方は無償のままご利用できます。多くの薬系大学はJAPIC会員となっております。

ですので、Plusサービスを無償でご利用できることを改めてご案内いたしました。

iyakuSearchのコンテンツには、添付文書情報の他、医薬文献情報、学会演題情報があります。これはJAPICが製薬企業向けに行っているサービスで、このサービスで得られた情報を医療・薬学などの関係者にもご活用いただくため、搭載しております。この医薬文献・学会演題情報の詳細情報(Plusサービス)もご利用いただけることから、ブースにお立ち寄りいただいた会員の大学皆様には、ぜひ使ってみたいとのご意見をたくさん頂戴いたしました。



# くすりの散歩道

no.172

## もうどくさんぽみち

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 医薬文献情報担当

小佐野 郁香 Ayaka Osano



親子のコミュニケーションを深める絵本の読み聞かせ。我が家では図鑑の読み聞かせも人気です。3歳息子は好奇心の広がりに応じて様々な図鑑を読んでいます。大人が読んでいても発見が多く親子で楽しんでいます。同じジャンルの異なる図鑑を欲しがった際は親としては購入に躊躇しましたが、迫力のある写真が特徴的な図鑑やめくるしかけのある図鑑等、読んでみると違いがあって面白いです。

危険生物や猛毒生物ブームの際は「角川の集める図鑑GET! 危険生物」や「EX MOVE猛毒の生きもの」を愛読していましたが、息子のお気に入りのひとつがニューギニアに生息する「ズグロモリモズ」。体内に毒をもつ鳥類は珍しいようで、人間でも死亡する猛毒をもつ鳥の存在は寡聞にして知らないことでした。

図鑑で得た知識が実体験につながるのも面白いです。「ズグロモリモズ」は調べた限り国内の動物園では展示されていないようでしたが、当時開催されていた国立科学博物館の特別展「鳥」で標本を見ることができました。標本の隣で写真を撮れたので本人も大満足。標本がケースに入っているのは「さわったらどくだからかなあ?」と会話したことが印象に残りました。

実生活で図鑑の知識が役に立ったこともあり。スマートフォンのカメラをかざすだけでAIが生き物の名前を教えてくれるLINNÉ LENS (リンネレンズ)というアプリがあり、水族館等でよく活用しているのですが、部屋にクモが出たときにこのアプリをかざしてみると「カバキコマチグモ」が候補に…。危険生物の図鑑で見た記憶があり息子に聞くと「それどくのクモだよ!」と教えてくれました。後から写真と図鑑を見比べてみると違う種類のよう

でしたが、日本に生息し屋内に侵入する可能性のあるクモだったので、毒の可能性を考えて処理できたのは有益でした。

さて、「猛毒の生きもの」図鑑には植物のページもあり、興味を持ったことから図書館で有毒植物の図鑑「ヤバすぎ!!! 有毒植物・危険植物図鑑」を借りてきました。スズランやアジサイ、アサガオ、ウメといった身近な植物も毒だったことに強い驚きがあったようです。その後、散歩中に図鑑で見た植物を見つけては「これどくだよね〜!」と会話。どんどん発見していく楽しさもあり、親子で有毒植物を探す「もうどくさんぽ」になりました。図鑑は写真も豊富なので、名前だけは知っていた「キョウチクトウ」は見分けられるようになりました。意外にも公園や庭木でよく見かけることに気づき、親にとっても勉強になりました。個人的にこの本で衝撃を受けたのは、「スズランをさしたコップの水に強心配糖体がしみ出し、その水を飲んだ子どもが亡くなった」という報告がある”ということ。これも今まで知らなかったことでした。小さいお子さんやペットがいるご家庭はぜひお気をつけてください。

ところで、前述の「角川の集める図鑑GET!危険生物」で興味深かったのが猛毒生物の毒の強さランキングです。ヘビでもクラゲでもなく…ボツリヌス菌の毒素(ボツリヌストキシンA)が生き物のもつ毒のなかで最強といわれているそう。そんな世界最強の「毒」が医薬品として使用されていることから、まさに「薬と毒は表裏一体」だなぁと思います。

### <参考資料>

- 角川の集める図鑑GET! 危険生物 (KADOKAWA, 総監修: 加藤 英明)
- EX MOVE猛毒の生きもの (講談社, 監修: 今泉 忠明)
- ヤバすぎ!!! 有毒植物・危険植物図鑑 (あかね書房, 写真・文: 保谷 彰彦)
- LINNÉ LENS (リンネレンズ)・かざすAI図鑑 <https://lens.linne.ai/ja/>

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より - (抜粋)

2026年3月1日～3月31日分のJAPIC Weekly News(No.1043-1046)の記事から抜粋

## ■米FDA

- 未承認のヒト細胞または組織由来製品の使用による重篤な危害のリスクの可能性についての患者および消費者への警告  
<https://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/safety-availability-biologics/patient-and-consumer-warning-about-potential-serious-risks-harm-following-use-unapproved-products>
- 米FDA, 確立された窒息救助プロトコールに従うよう国民に奨励: FDA Safety Communication (更新情報)  
<https://www.fda.gov/medical-devices/safety-communications/update-fda-encourages-public-follow-established-choking-rescue-protocols-fda-safety-communication>

## ■Health Canada

- Summary Safety Review—bortezomib - 好酸球増加と全身症状を伴う薬物反応の潜在的リスクの評価  
<https://dhpp.hpfb-dgpsa.ca/review-documents/resource/SSR1770998522580>
- Summary Safety Review—Vitamin B6健康製品—末梢性ニューロパチーの潜在的リスクの評価  
<https://dhpp.hpfb-dgpsa.ca/review-documents/resource/SSR1773147434487>
- IXCHIQ (chikungunya vaccine, live, attenuated) と、医学的にフレイルの状態にある65歳以上のヒトにおける重篤な副反応のリスク  
<https://recalls-rappels.canada.ca/en/alert-recall/ixchiq-chikungunya-vaccine-live-attenuated-and-risk-serious-adverse-reactions>

## ■独BfArM

- Colecalciferol (Vitamin D3) / Fluoride—乳幼児のくる病および/または齲歯予防用錠剤の安全な使用  
<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RI/2026/RI-colecalciferol.html>

## ■医薬品医療機器総合機構

- トリプタノール錠10/25 ニトロソアミン化合物検出のお知らせ  
<https://www.pmda.go.jp/files/000279518.pdf>
- 抗てんかん剤に係る自動車運転等についての注意喚起に関する情報提供  
<https://www.pmda.go.jp/files/000279739.pdf>

## ■厚生労働省

- 再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づく改善命令について  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_70640.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_70640.html)
- 再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づく緊急命令について  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_71555.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_71555.html)
- 麻疹(はしか)の現状と対策に関する記者勉強会のお知らせ  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html)

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail(有料)もしくはJAPIC Weekly News(無料)のサービスをご利用ください(JAPICホームページのサービス紹介:<<https://www.japic.or.jp/service/>>参照)。JAPIC Weekly Newsサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当(TEL 0120-181-276)までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2026	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2026年3月31日
医療薬学II 医薬品情報学 (新スタンダード薬学シリーズ)	新スタ薬シリーズ編集委員会 編	東京化学同人	2026年3月10日
日本の医薬品 構造式集 2026	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2026年3月16日
未来をつくる医療DX・AI最前線	大島一博 編著	プレジデント社	2026年3月2日

## 情報提供一覧

2026年4月1日～4月30日提供

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新頻度
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free <a href="https://iyakusearch.japic.or.jp/">https://iyakusearch.japic.or.jp/</a>	
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2026年3月分 (HP定期更新情報掲載)	4月 1日	1. 医薬文献情報	月 1回
2. JAPIC 「医療用・一般用医薬品集インストール版2026年4月版」	4月30日	2. 学会演題情報	月 1回
3. 2026年版 「医薬品製造販売承認品目一覧」	4月30日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC NEWS」 No.504 2026年5月号	4月30日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		5. 日本の新薬	随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	6. 学会開催情報	毎 日
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	7. 医薬品類似名称検索	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1回	8. 効能効果の対応標準病名	月 1回
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2回	9. ブルーブック連携データベース	随 時
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 <a href="https://iyakusearch.japic.or.jp/">https://iyakusearch.japic.or.jp/</a>	
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	1. 医薬文献情報プラス	月 1回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	2. 学会演題情報プラス	月 1回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Where	随 時

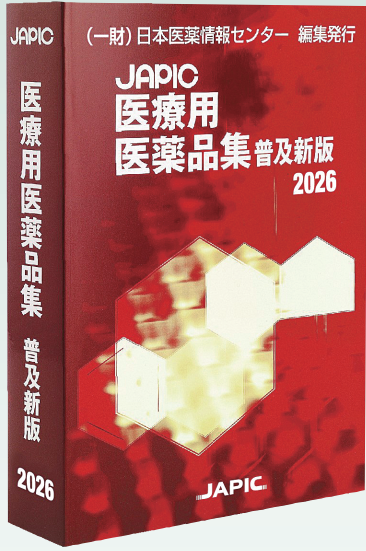
### 外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

# 医療用医薬品集

## 普及新版2026

2026年  
3月発行



- ★2025年9月に発刊した「JAPIC医療用医薬品集2026(B5判)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、コンパクトなA5判サイズに再構成
- ★成分ごとに電子添文記載の重要項目の情報を収録
- ★約2,400成分、約18,000製品の医療用医薬品情報を2026年1月時点の最新情報で収録

### ■掲載内容

- ◎ 一般名、製品名
- ◎ 承認日(一部製品)
- ◎ 組成(規格)
- ◎ 効能・効果、用法・用量
- ◎ 警告
- ◎ 禁忌
- ◎ 重要な基本的注意
- ◎ 特定背景関連注意
- ◎ 相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎ 副作用
- ◎ 臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎ 薬物動態における半減期

価格: **5,280**円(税込)  
A5判/約1,900頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データおよび病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC(TEL0120-181-276)まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュどうぞ!!

### こうりょうきょう

「高良姜」と書く。学名: *Alpinia officinarum*. 英名: Lesser galangal. しょうが科はなみょうが属。原産地は中国。東南アジアで栽培。非耐寒性・常緑性多年性草本。花期は春から秋にかけて長く咲く。紫色やピンク、白、複色などの花をつける。Flavone系 galangin (抗菌活性)等含有。



JAPICホームページより  
<https://www.japic.or.jp/>

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン  
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。